

とよなか

教え子を再び戦場に送るな！

2012年10月22日発行 NO. 489

子ども達の豊かな成長・発達の力を
ために皆で力を合わせましょう！

「キャリア教育」にひそむ 危険なねらい

突然増えた研修

夏休みの十六中校区の小中連携合同研修として「キャリア教育」研修が行われました。

突然「研修を一本増やして、キャリア教育研修を行う」と行われた研修の裏に「全部の中学校区にキャリア教育カリキュラムを作成する」という豊中市の方針があることがわかりました。

研修内容は 各学校で

問題の第一は、本来自由でなければならぬ「校内研修」の内容を、市が指定していることです。キャリア教育について講師の謝礼金として別に予算を組んでいます。つまり、「キャリア教育研修」をするのであればお金は出すというわけです。

「校内研修」は、それぞれの学校や中学校区の実情や研究テーマにあわせて講師を決めるのが当たり前です。どの学校も少ない予算をやりくりして講師を探し研修をしているにもかかわらず「キャ

「キャリア教育」とはどんなもの？

第二の問題は、「キャリア教育」の内容です。そもそも「キャリア教育」とは、どんなものなのでしょう。

豊中市が今年3月に

「リア教育」だけ特別扱いにするのは納得できません。

「授業評価・授業アンケート」 に広がる怒りの声

授業アンケート撤回署名
にご協力ください！

府教委が行おうとしている「授業評価・授業アンケート」問題の特集した全教豊中教職員組合の組合ニュースNo.488号を見て各職場で「絶対に許されない！」という声が上がっています。そして、所属組合の違いや組合所属の如何を問わず撤回署名が集まっています。「給料カットはあきらめていたけれど、今度は許されない。」という青年教師や放課後の職員室で「こんなやつたら兵庫県に異動したい。」という人、「保護者や生徒の受け狙いの授業を考える人が増える。」「子どもをしつかり叱らないかん場面でも嫌われんようにきつちり叱らないようになる」などの声も。

また、全教の組合員から「保

護者アンケートの結果はアンケート集約をする管理職しか見る事ができない。」という事を聞いた人は「それやったら何でも書きたい放題や」とか「授業改善にならない」という声にまじって「豊中はただでさえ管理職試験を受ける人が少ないと聞いているのに、こんなしたらますます忙しくなって管理職したいという人もいなくなるんじゃないか？」と管理職の心配をする人までいます。全教と日教組の組合員で校長にアンケートの実施をしないよう申し入れをした職場もあります。教育委員会に「授業評価・授業アンケート」の実施を撤回させるまで力を合わせて頑張りましょう。



ら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育です」(「はじめに」より)としたうえで、「まったく新しい教育ではない。中学校では進路指導の取組み、小学校では人間関係形成力・社会形成力(コミュニケーション能力等)をはじめとする基礎的・汎用的能力を育む教育」としています。

実際、市がカリキュラム(案)として提示している内容は、中学校の職場体験、小学校の係活動、委員会活動、「おおきくなつたぼく・わたし(生活科)」:等々、これまで長年やってきた学習や活動が並んでいます。それなら、なぜわざわざ「キャリア教育」という題のもとに「焼き直し」しなければならぬのでしょうか。

子どもたちは「人材」ではない!

それは、大阪府が「キャリア教育プログラム」を推進するため、外部人材

の派遣業者として挙げている「NPO法人日本アントレプレナーシップアカデミー(JAE)」の研修にあらわれています。(豊中市もこのJAEの主張をとりいれています)そこには、『各校の取組みをキャリアの視点から見直し、「キャリア教育カリキュラムとして」とまとめる』と書かれています。

学校現場の思いと離れたところで、とにかく「キャリア教育」を学校に取り入れ、押し付けようとしているのではないのでしょうか。

今、多くの若者が「派遣」の不安定な働き方しかできず、就職難に苦しみ、また会社の都合でいとも簡単に大量に「リストラ」されるといふ厳しい現実があります。

このような社会に目を向けつつ、子ども達が本当に夢や希望を持って学べる教育、基礎学力を大切にした教育をすすめていきたいと考えます。

問題ありの 高校入試制度の変更



入試に「絶対評価」導入で懸念されている事.....

高校入試に関わる評価を現在の「相対評価」から「絶対評価」に変えるという報道が流れました。「相対評価」は、がんばっても他の子ども達が頑張つたら評価が上がるらない、というのがその理由のようです。学校によつて、同じ十段階の評価でも学力が違う、ということも言われています。

確かに絶対評価は子ども達のがんばりをそのまま評価できる、という良い面があります。しかし、高校入試の内申点を「相対評価」から「絶対評価」にした場合、皆ががんばれば全員「評価10」になる事もあり「絶対評価では内申点の参考にならない」ということで、当日の試験の点数だけで合否

学校現場の状況を無視した議論

を決めてしまうのではという事が懸念されます。また、「客観的な評価を」ということで、府下一斉学力テストや、有名進学塾が行なっている模擬テストのデータに頼る事にならないかという新たな問題点も考えられます。

そもそも、高校入試にについては、各中学校が、長年のデータの蓄積をもとに、生徒たちの最善の進路のために進路指導をしてきています。「相対評価がよいか、絶対評価がよいか」という極めて大事な制度変更は、学校現場や専門家の意見をもち、慎重に時間をかけて行わないといけないことです。

前・後期入試で子ども達の心は?

また、二年前から、普通科の一部の高校で、前期・後期の二回の入試が行われ、中学校現場からは、問題点が指摘されてきました。それが、来春よりすべての普通高校に広げられます。

前期で不合格になつても、後期で再チャレンジできますが、4月から同じ高校で机を並べる生徒たちの気持ちはどうなるのでしょうか?

学区の改編でさらに競争激化!

現場の強い反対を押し切つて強行された「9学区を4学区にした学区改編」を、さらに全府1学区にすればますます競争が激化し、中学校の進路指導を混乱させます。

子ども達の成長・発達を歪める高校入試制度改悪に反対しましょう。